

東日本大震災 日本人が学んだこと

～明るい面は出てきたか～

2011(平成23)年3月11日東北地方太平洋沖を震源とする M9.0の大地震が起こった。

東京の首相官邸ですら情報が入りにくい状態になった。福島第一原子力発電所も壊れ、政府は早急の対策を迫られた。

あの震災から約1年6ヶ月が過ぎた。なにか日本国民が学んだことや明るい

面が出てきただろうか？



地震当日の夜、東北は火の海と化した。

① まず、日本国民(政府の人々を含む)が災害に対する危機的意識を持つようになってきたことだと思う。防波堤を超える高さの津波が来たり、福島第一原発は大丈夫だと言われてきたが結果、放射能が漏れ出すという大惨事になってしまったことがあげられ、政府の地震に対する甘い見方が見直された。明るい面とは言わないが学習したことである。



津波で壊れた福島第一原発。

- ② これも国民が危機的意識を持ったことによるが、地域でも地震を想定した防災訓練が積極的に行われ始めたことや、各家庭でも避難グッズをそろえることを勧めるため、デパートなどでも避難器具をそろえ始めたこと。これはもし、再び大地震が起こった場合、避難器具をきちんとそろえておけば安全に逃げられるため、けが人を一人でも減らすことができるので明るい面と言えるだろう。
- ③ 真実が公にされたこと。これは震災後から現在までを含めるとたくさん出てくる。震災後は首都高速道が老朽化してきていることや、首都直下地震の被害想定、最近では南海トラフ地震の被害想定が新聞やテレビで発表された。
- ④ 日本人の優しさが世界に明らかになった。震災後、大手携帯電話会社 SoftBank が被災地へボランティアに行ったり、普通の人たちもボランティアとして被災地へ行き、被災者と心を通わせた。さらに天皇陛下までも被災者を慰めに東北地方へ行かれた。被災地への復興募金活動も広まった。

こんな中、どさくさにまぎれて募金を自分のものにするという悪質な人も出て問題になったりしたが、ほとんどの人が優しい心を持ち、日本全体が優しくなっている。

——復興のためには、何が必要か。

復興のためにはそれぞれが自分の意思を持つことが大切だと思う。「絆」や「団結」などという抽象的かつ誰でも答えられるようなことでは無く、「復興のために自分はこれができる！」などというしっかりとした考えを持ち、他のひとに左右されない意思を持つことが大切だと思う。

さらに、「優しさ」。大震災直後から日本人の優しさぶりが発揮された。今後もさらにその優しさが復興へつなぐと日本全体が本当の意味で「団結」し、乗り越えていけたらいいと思う。



がんばろう、日本！！